

2010年1月4日

三菱ケミカルホールディングス社長 小林 喜光 2010年 年頭挨拶 (要旨)

株式会社三菱ケミカルホールディングス

【新たなる上昇を始めるべき年】

2009年年頭が「崖を転がり落ちつつある」状況だったのに対して、2010年は「新たなる上昇を始めるべき年」。しかし、この大きな世界では、突然一人の救世主が現れ、その瞬間にすべてがバラ色に変わってしまうような、われわれにとって都合のよい変革は起こってくれない。

【安全を能動的に実現】

たとえ目に見える大きな変化がなくても、われわれはけっして諦めずに地道な努力を続けてゆく。そして年頭に際し、あらためて「安全」を最優先課題として位置づけ、安全を能動的に実現してゆく。

【三菱レイオンを仲間に加え、グループの新たな「協奏」を】

今年には三菱ケミカルホールディングスの4つ目の事業会社として三菱レイオンが仲間に加わる。繊維という技術的・文化的基盤を持ちながら、同時にMMAという分野での圧倒的な世界トップメーカーでもあるという三菱レイオンのキャラクターは、これまでの3事業会社にはなかったもの。三菱レイオンのグループへの参加は、炭素繊維・水・スペシャリティケミカルという領域で、新たな「協奏」の形を提供してくれるだろう。

【時代が求めるのは「永続性(サステナビリティ)」——「化学(ケミストリー)」の時代が来る】

時代はより明確に「永続性(サステナビリティ)」を求めるようになる、と確信している。地球温暖化などの問題も、この「永続性」というひとつの言葉・概念で括られてしまうと言っても過言ではない。そして、永続性を求めるなら、21世紀は、人類が「真の快適(KAITEKI)」をより直接的に追求する時代になるはずだ。真のKAITEKI実現のためには、より高度に複合化された素材やサービスが必要となり、それら素材やサービスを提供する、三菱ケミカルホールディングスグループの存在がますます重要になってくる。

【構造改革には大きな痛みを伴うが、歩みを止めるわけにはゆかない】

永続性の実現のため、世の中が「化学(ケミストリー)」の時代へと大きな変化を遂げつつあるいま、われわれは打つべき手をすべて打っておかなければならない。構造改革には大きな痛みを伴うが、歩みを止めるわけにはゆかない。よりよい明日に向かって、創造と飛躍を加速させてゆこう。

以上

<本件に関するお問合せ>

株式会社三菱ケミカルホールディングス

広報・IR室

電話: 03-6414-3730